



TREND-POINT

バージョンアップガイド

TREND-POINT Ver.4.1 へのバージョンアップ
内容をご紹介します。

※解説内容がオプションプログラムの説明である
場合があります。ご了承ください。

目次

バージョンアップガイド TREND-POINT Ver.3→Ver.4

1 i-Construction P.2

| | |
|-----------------------------|---|
| 1- 1 i-Construction出来形管理に対応 | 2 |
|-----------------------------|---|

2 共通 P.4

| | |
|-------------------------|---|
| 2- 1 測量座標系での表示に対応 | 4 |
| 2- 2 複数の路線を保持 | 5 |
| 2- 3 等高線を中心にパフォーマンスをアップ | 5 |

3 表示・編集 P.6

| | |
|--------------|---|
| 3- 1 補間機能を改良 | 6 |
|--------------|---|

4 その他 P.7

| | |
|---------------------|---|
| 4- 1 作業フォルダのクリーンアップ | 7 |
|---------------------|---|

目次

バージョンアップガイド

TREND-POINT Ver.4→Ver.4.1

1 i-Construction P.9

- 1- 1 LandXML形式の設計データ(三角網)の読み込みに対応 _____ 9
- 1- 2 出来形評価対象外面の設定 _____ 10

2 断面 P.11

- 2- 1 「地理院マニュアル」に準じた横断面抽出機能に対応 11
- 2- 2 ピック表示を各種画面に連動表示 _____ 12
- 2- 3 路線読み込み対象の形式を拡張 _____ 13

3 ビューアー P.14

- 3- 1 32ビット版のビューアーに対応 _____ 14
- 3- 2 ビューアーの出力、起動のパフォーマンスを更新 _____ 14

4 その他 P.7

- 4- 1 UTF-8の基盤地図情報(数値標高モデル)の読み込みに対応業フォルダのクリーンアップ _____ 15
- 4- 2 初期フォーマットの追加 _____ 15

Ver.3→Ver.4

TREND-POINT Ver.3からVer.4へのバージョンアップ内容をご紹介します。

1 i-Construction

2 共通

3 表示・編集

4 その他

1 i-Construction

i-Constructionのバージョンアップ項目をご紹介します。

1-1 i-Construction 出来形管理に対応

i-Constructionで新たに定義された、3次元データを活用した出来形管理に対応しました。出来形プロジェクトを新たに設け、一連の操作で簡単に、i-Con出来形管理を実施できるようになりました。要領に規定された細かい設定を行う必要はなく、面の属性を設定するだけで、評価まで行うことができます。また、電子納品ファイルを出力することができますので、電子納品ツールを利用して簡単に電子納品まで実施することが可能です。





[出来形管理]タブでは以下の操作を行うことができます。

| [出来形管理]タブのコマンド | |
|--|--|
|  (設定) | 工種、種別(切土部)、種別(盛土部)、データを設定します。 |
|  (設計データ読み込み) | 設計データ(設計路線、設計面)ファイルを読み込みます。 読み込めるのは、EX-TREND 武蔵の[ファイル]-[福井コンピュータ連携]-[TREND-POINT データ(.XFD)へ保存]で保存した XFD ファイルです。 |
|  (設計データ属性設定) | 設計データの属性を設定します。 |
|  (現況データ読み込み) | 出来形評価の対象となる現況データを読み込みます。 ※起工測量データがある場合は、起工測量データも読み込んでください。 |
|  (現況データ属性設定) | 現況データの属性を設定します。 |
|  (フィルタリング) | フィルタリングを行います。 |
|  (点群ファイル書き込み) | 表示中の点群のみをテキストファイル(.txt)に書き込みます。 |
|  (座標点管理) | 座標点の管理を行います。 |
|  (出来形評価) | 設計面と現況点群を用いて出来形の評価を行います。 |
|  (切盛編集) | 出来形ヒートマップから切土/盛土の編集を行います。 |
|  (出来形ヒートマップの表示) | 出来形ヒートマップの表示/非表示を切り替えます。 |
|  (出来形グリッド情報) | マウス位置の出来形グリッド情報の表示/非表示を切り替えます。 |
|  (成果書き込み) | 出来形成果の書き込みを行う。 |

2 共通

共通のバージョンアップ項目をご紹介します。

2-1 測量座標系での表示に対応

点群データの読み込み時に、座標系を設定できるようにしました。また、表示でも、数学系、測量系を切り替えできるようになりました。





- ・ [TOPCON] [LAS]は数学座標系データとして読み込みます。
- ・ [LandXML] [SIMA] [基本設計データ]は測量座標系データとして読み込みます。
- ・ [JPGIS (GML)]は経緯度データを数学座標系に変換して読み込みます。



ステータスバーに座標系を表示して変更できるようにしました。
座標系ボタンをクリックすると変更することもできます。

2-2 複数の路線を保持

1つのプロジェクト内で、複数の路線を作成・保持できるようにしました。
中間点ピッチ違い、断面抽出条件違いの路線を複数残すことも可能です。

2-3 等高線を中心にパフォーマンスをアップ

等高線の描画、作成、三角網の作のパフォーマンスを、Ver3と比較して150%以上アップしました。
また、等高線作成処理においても以下の対応を行いました。

- ・ 作成設定に、三角網指定を追加
- ・ 外周線を考慮して作成するよう改良

3 表示・編集

表示・編集のバージョンアップ項目をご紹介します。

3-1 補間機能を改良

補間機能を改良しました。範囲確定時に視点を自動設定するようにしました。
この対応により、補間結果が波打つことなく美しく仕上がるようになりました。

4 その他

その他のバージョンアップ項目をご紹介します。

4-1 作業フォルダのクリーンアップ

TREND-POINT起動時に、前回使用した作業フォルダを自動削除するようにしました。
この対応により、気づかぬうちにディスクが圧迫されることがなくなります。

Ver.4→Ver.4.1

TREND-POINT Ver.4からVer.4.1へのバージョンアップ内容をご紹介します。

1 i-Construction

2 断面

3 ビューアー

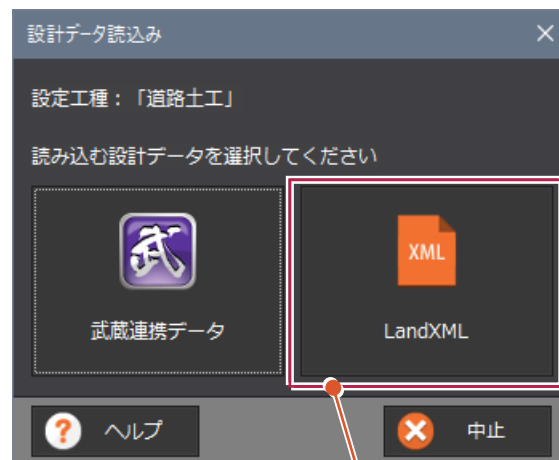
4 その他

1 i-Construction

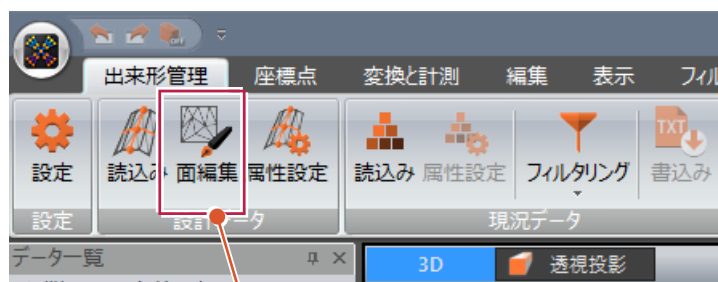
i-Constructionのバージョンアップ項目をご紹介します。

1-1 LandXML 形式の設計データ(三角網)の読み込みに対応

LandXML形式で作成された設計データ(三角網)の読み込みに対応しました。読み込み時には、自動で面の分割処理が行われます。また面編集コマンドを利用して、詳細な面の指定、変更を行うことができます。この対応により、他社アプリで出力された設計データを利用して、出来形評価を実施することができます。



[設計データ読み込み]に[LandXML]を追加して、LandXML形式で作成された設計データ(三角網)を読み込めるようにしました。



[面編集]を追加して、詳細な面の指定、変更を行うことができるようにしました。

1-2 出来形評価対象外面の設定

非表示になっている設計面に関しては、出来形評価の対象外となるように変更しました。

2 断面

断面のバージョンアップ項目をご紹介します。

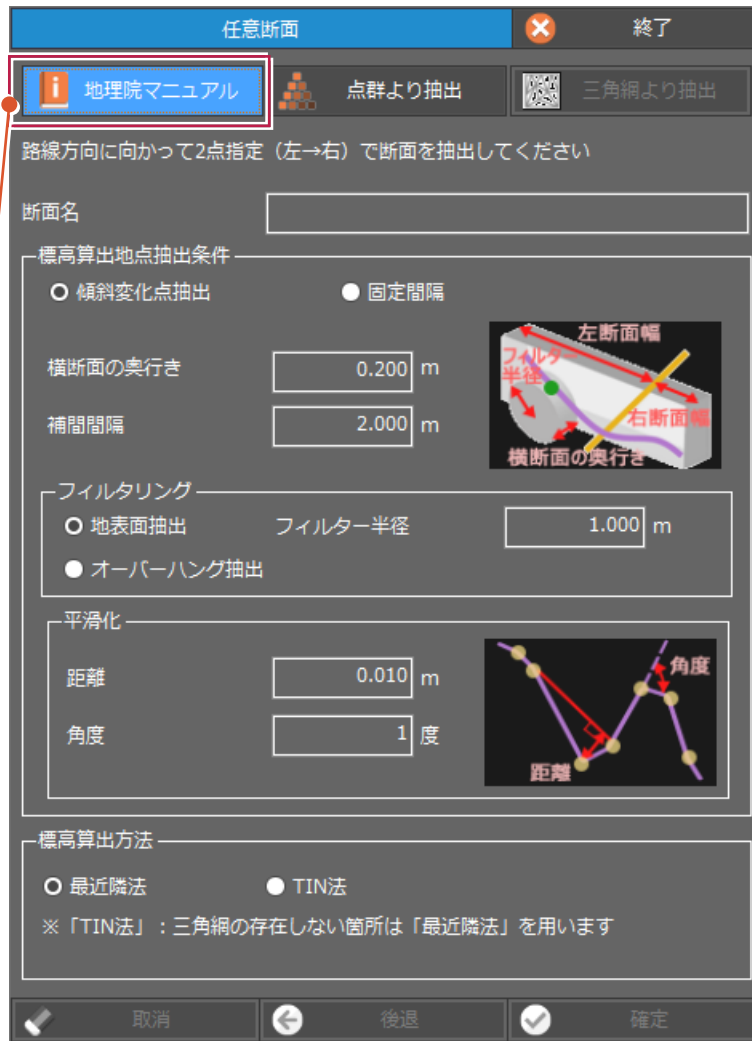
2-1 「地理院マニュアル」に準じた横断面抽出機能に対応

横断面抽出設定に、「地理院マニュアル」を新たに追加しました。

「三次元点群データを使用した断面図作成マニュアル」に準じた方法で、横断面抽出を実施することができます。
また任意断面も同様に対応しました。



[横断面抽出]に[地理院マニュアル]を追加して、「三次元点群データを使用した断面図作成マニュアル」に準じた方法で、横断面抽出を実施できるようにしました。



[任意断面]に[地理院マニュアル]を追加して、「三次元点群データを使用した断面図作成マニュアル」に準じた方法で、任意断面を作成できるようにしました。

2-2 ピック表示を各種画面に連動表示

点のピック時に表示されるマークを他のビューにも連動して表示するように改良しました。これにより、指定箇所の確認が分かりやすくなります。

2-3 路線読み込み対象の形式を拡張

[断面]タブの[路線SIMA読込]の名称を[中心線形読込]に変更して、LandXMLファイルの中心線形データも読み込めるようにしました。

対象ファイルを「すべてのファイル」にすることで、基本設計データの中心線形データも読み込むことが可能です。



[路線SIMA読込]の名称を[中心線形読込]に変更して、LandXMLファイルの中心線形データも読み込めるようにしました。

3 ビューアー

ビューアーのバージョンアップ項目をご紹介します。

3-1 32ビット版のビューアーに対応

32ビット版ビューアーの出力に対応しました。

出力時には64ビット版、32ビット版両方を内包した形でビューアーが出力され、起動時する際に利用環境に応じて、適切なビューアーが起動します。

また、Ver.4まで提供していた、チェックツールは廃止し、ビューアー起動時に自動でチェックを行うように動作変更しました。また32ビット版では、データ量や空きメモリに関してのチェックも行われ、内容に応じて、警告メッセージ(起動可能)、エラーメッセージ(起動不可)が表示されます。

3-2 ビューアーの出力、起動のパフォーマンスを更新

ビューアーの出力、起動のパフォーマンスを改善しました。

4 その他

その他のバージョンアップ項目をご紹介します。

4-1 UTF-8の基盤地図情報(数値標高モデル)の読み込みに対応

国土地理院が提供している、基盤地図情報(数値標高モデル)のフォーマットが11月よりUTF-8に変更されるので、UTF-8形式の基盤地図情報(数値標高モデル)ファイルの読み込みに対応しました。また、[JPGIS(GML)]の名称を[基盤地図(標高)]に名称変更しました。



4-2 初期フォーマットの追加

点群読み込み初期フォーマットに「XYZ・RGB」を追加しました。

